

週寫眞
報眞

情報局編輯

十月廿七日・第二九五五號・十七



ましらたま
 眞白玉これはこれ日本の土に實りし米
 黙々と地に匍ひ陽にさらされ
 身を楯となして風雨を防ぎ
 粒々辛苦に實りし
 これはこれ尊い戦果
 この戦果民みな戦ふ糧とかて
 日の丸の旗たてて捧げる心の尊さ
 朝夕にこの糧に謝し
 われらただ戦ひに身魂を捧げん
 これはこれ戦ふ國の戦ふ糧ぞ



新穀を感謝して

幾千代の契り御めでたし東久邇宮盛厚王殿下 同妃成子内親王殿下



東久邇宮盛厚王殿下
 と照宮成子内親王殿下
 との御めでたき晴れの
 御婚儀は、十月十三日、
 瑞氣たなびく大内山の
 賢所大前において、い
 とも厳かに挙げさせら
 れた
 決戦下畏くも諸事御
 筋素にとの御内沙汰な
 がら、一億蒼生の歡喜
 は全土に充ち満ちて、
 竹の園生の彌栄えを心
 から壽き奉つたのであ
 った

東久邇宮家御貨下

輝かしのフィリピン獨立の日

十月十四日



撮影 阿波通信社

フィリピンの新國旗は上部分が青、下部部分が赤と白の二色で、中央には太陽の星と三つの星がある。これは完全な白である。



昭和十八年十月十四日、「フィリピン」國は獨立を宣言し、大東亞共榮圈の一員たる完全な獨立國として光榮の第一歩を踏みだした。

即ちこの日、朝、わが比島派遣陸軍最高指揮官黒田重徳中将は、バルガス行政府長官以下を招致し、同日を以てほゞ二年に亘る軍政を撤廢する旨を通達、これによつてわが軍政を離れたフィリピンは、直ちに新獨立國を建設すべく、午前九時四十五分よりマニラ市國會議事堂前廣場で、その歴史的獨立式典を舉行したのである。



ワウレル大統領の就任演説

黒田最高指揮官軍政の撤廢を通達。写真は黒田最高指揮官と握手を交はすワウレル大統領



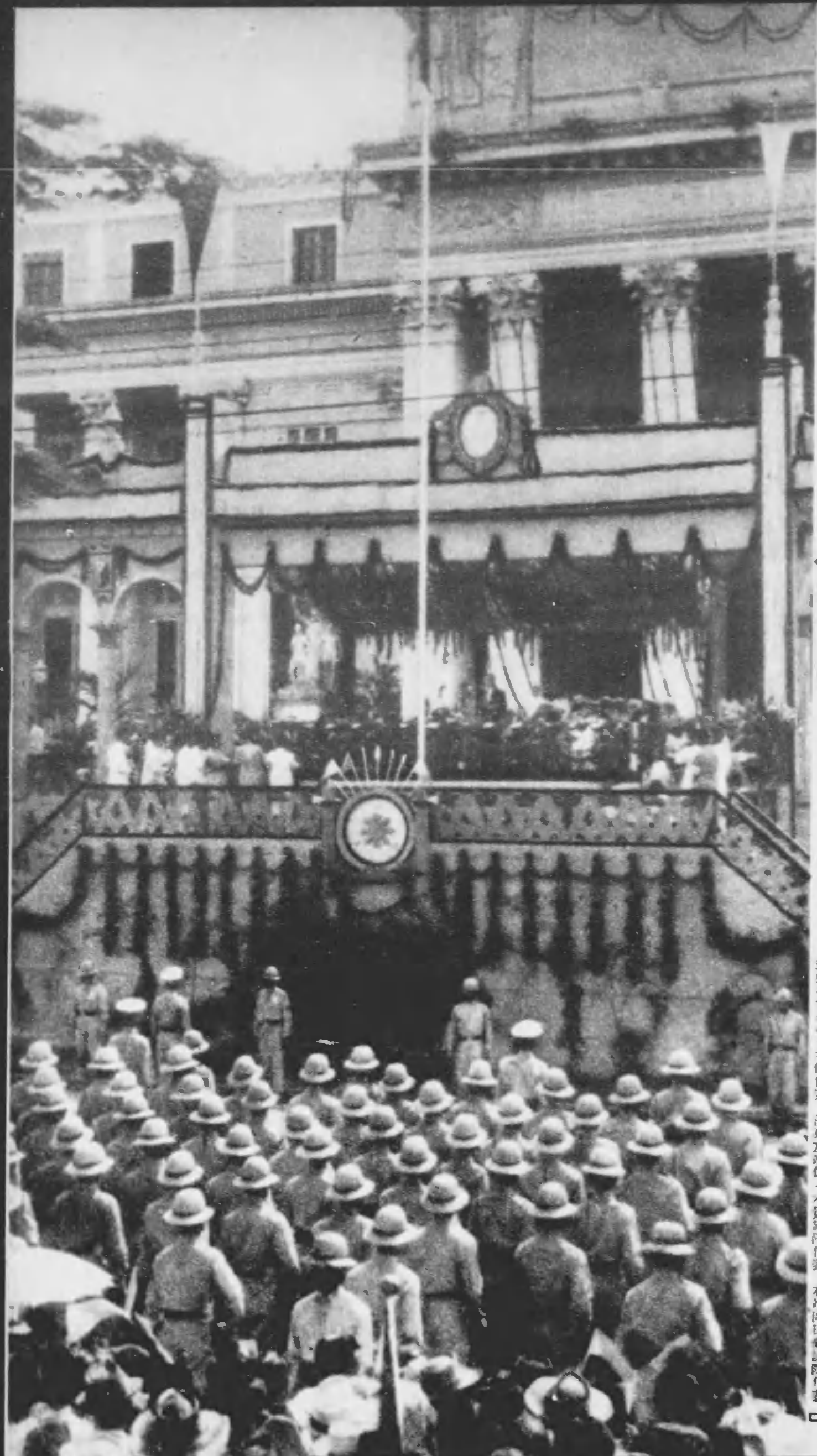
思へば、スペインの領有以來約四百年、スペインに次ぐアメリカの極精下に、千八百万民衆が『比島建設』を目指して戦つて來た努力は、萬邦をしてその所を得しめるわが堅國の大理想の顯現によつて酬いられ遂に強力な新國家は創成を見、勇躍帝國と共に大東亞の建設に、世界新秩序の確立に、相携へて邁進することになつたのである。かくて新比島は、かつての民族的英雄ホセ・リサールが企圖した『南海の眞珠』として光彩を全世界に輝かし得る日を約束されるに至つたのである。



壯麗な獨立式典式場



式典に参列の日本側代表。前列左端は木下武院代表、右端は國會議院代表





◀ 街角に貼られた日本郵ポスターに見入る少女たち



↑ 日本語の上達を喜ぶ、餘り上手な今日の子供たち。地元の兵隊さんとお話している様子

◻ お話を上手になつて兵隊さんとお話している様子

比島建設につくされた軍政三年の努力は、文化教育の部門にも立派に實を結んで、比島全島にわたつて諸學校の地に再開されたもの公私立小學校約一千四百校、中等學校は五十校に達してゐる。この他、中等學校、専門學校、大學などについても、必要なものは逐次再開がはかられてゐる。獨立した比島を脱した比島教育の健全な發達に十分期待される。日本語の普及も比島人の識字に達するまで比島人一般に學問の心をもち

たことと併せて、マニラなどの都會地ばかりでなく、地方でも目覚ましい進歩をみせてゐる。このサバンガは山岳部の一僻村で、昔は首領人種といはれたイロロ族の住む地方であるが、イロロ族のヨイコタが分府の兵長先生を中心に、熱心な日本語を學ぶ頼母といふは、其集團の一人として、よく起上つた比島の將來を物語る一員である。



比島サバンガ
僻村の子らにもこの頼母レキ
 男の子たちは角力が大好きだ。授業の合間を見れば、バックグロイ、ノコッタ、

軍政三年の努力実を結び
 ◻ 元氣一杯なラジオ体操。だが、あまり良く捕はないのに先生も一苦勞





陸軍少年戦車兵

映畫に士富 映映



大東亞戦争日誌

九月

九日 ●帝國海軍艦隊が航空部隊は日本近海その他海面において七、八の両月に亘り敵潜水艦一隻を撃沈せし。

●(一) 帝國海軍は九月九日イタリヤ、バドリア政府の單獨降伏に伴い、直ちに東亞各地に存在せる帝國軍艦の武装解除および艦艇の留置を實施せり。(二) 占領地内における伊國海軍と帝國海軍においてこれを援救し、その他地域にありては各別邦の移住に協力せり。なほ占領地内の非戦闘員に對しては監視保護を加へつゝあり。

十二日 ●九月十二日朝敵潜水艦十八機北千島に襲撃せり。我が海軍航空部隊および地上部隊はこれを襲撃し、その九機(うち不詳者二)を撃墜し、一機を大破せしめたり。就中我が方の一戦闘機は敵機に遭撃を蒙り、これを撃墜せり。我が方輸送船二隻は損傷するほか地上の損害は輕微なり。

十四日 ●ソロモン方面その後の戦況は依然激烈にして、我が海軍守備隊はイタリヤ、バドリア政府の單獨降伏に伴い、直ちに東亞各地に存在せる帝國軍艦の武装解除および艦艇の留置を實施せり。(二) 占領地内における伊國海軍と帝國海軍においてこれを援救し、その他地域にありては各別邦の移住に協力せり。なほ占領地内の非戦闘員に對しては監視保護を加へつゝあり。

十九日 ●九月十八日午後より同十九日早朝にかけて、敵機延二百數十機ヤルカ島に襲撃せり。我が海軍航空部隊は九月十四日東襲せる敵機飛行機延二百四十機以上を撃墜し、地上砲火と相俟り、その六十機を撃墜せり。我が方の損害、自爆未遂機を含め五機なり。

二十日 ●支那方面帝國陸軍航空部隊は連日支那各地に對し、敵軍の軍事施設等を攻撃中にして、九月十日、同日二十日までの状況は次の如し。

(一) 九月十七日、十五日、十六日、十九日の四日に亘り建陽、同十八日、同十九日、同二十日昆明および南寧の各飛行場を攻撃し、建陽および南寧の各飛行場を破壊せり。昆明においては敵機二機を撃墜し、その一機を大破せり。南寧においては五機所より撃墜せしめた。

二十五日 ●(一) 敵の一兵團は九月二十二日以東ニエーギニア島フライング、ヘン北方地区に上陸せり。同地区附近の我が海軍部隊はこれを襲撃し、日下敵艦隊閉中なり。

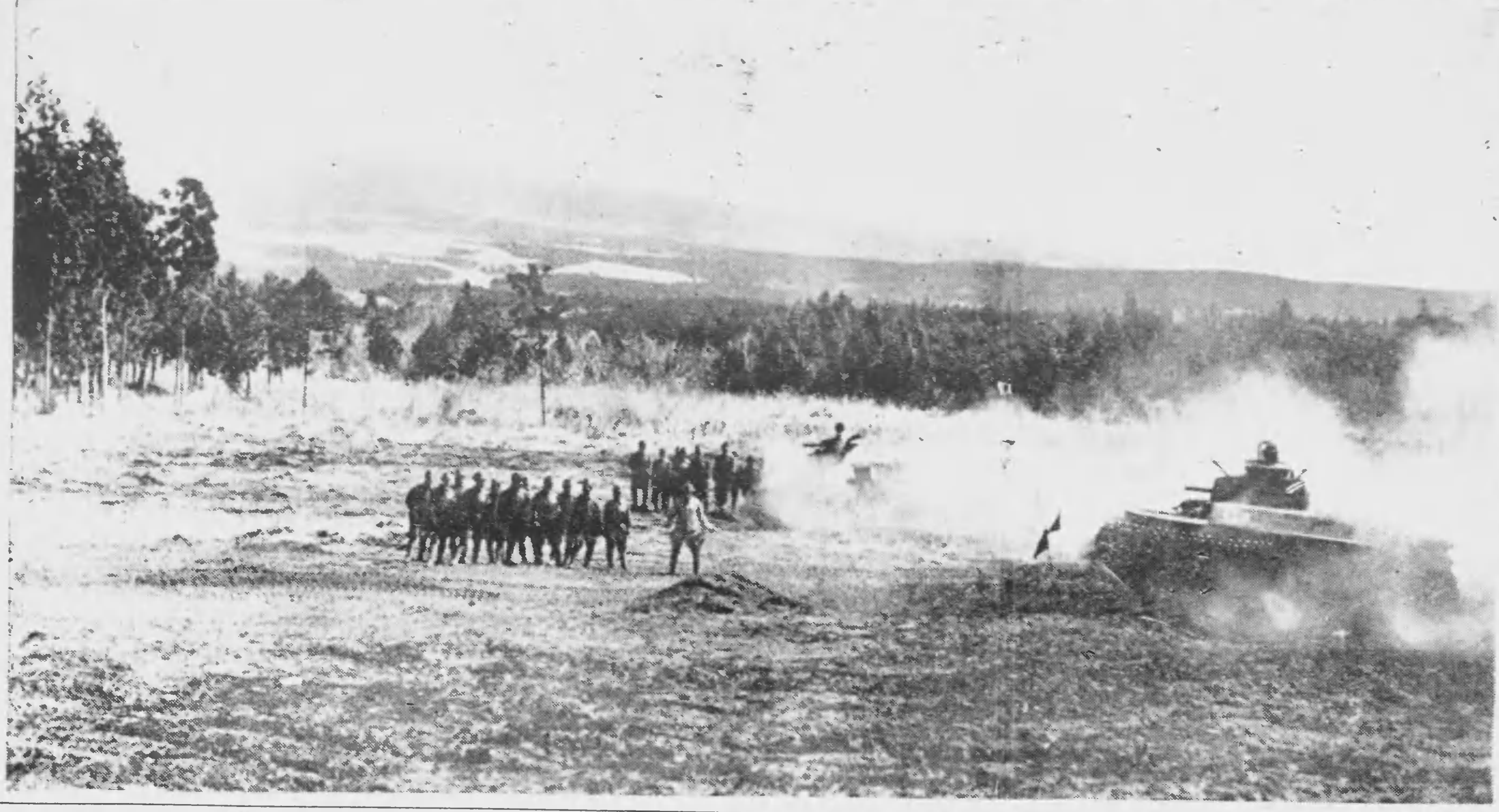
(二) 我が海軍航空部隊は同方面の敵輸送船およびフライングヘン北方地区に上陸中の敵を攻撃中にして、九月二十一日より同二十三日までの戦果は次の如し。

●輸送船二隻、大型輸送船一隻、沈没、巡洋艦二隻、小型輸送船二隻、沈没。

この學校での在學年数は二ヶ年、この間に學業と訓練を十分に行ひ、何物をもふみこつて、つねに地上部隊の最前頭は日の丸の旗を翻へして前進する戦士としての資格を修得して卒業する。卒業後は兵長として約一ヶ年隊附すると、ここに戦車隊下士官に任官するのである。

木の香もすがら、新しい新校舎は、あらゆる設備をこゝのへて少年諸君の入学を待つてゐる。殊に諸君の親代りとなり、見聞分となつて、どんな面倒をもみてくれる教官や二年生たちは、元氣躍動たる諸君の入学を心から待つてゐる。

なほ陸軍少年戦車兵學校への志願者資格は大正十五年四月一日から昭和五年四月一日までの間に生れたもの。期日の締切は本年十二月末日まで。志願者は直接、學校または近くの警備司令部、教育總監部、備前本部に郵便切手を封入して申込み、志願書と志願者心得を郵送してゐる。また、五年からは特に志願者の便をよきよう、全國の市町村役場や國民學校からもらふこともできる。



富士に誓ふ

本映畫は少年飛行兵とやらんで、戦争に重要な役割を担つた少年戦車兵の育成過程を描いたものである。富士の麓で戦車兵として日夜訓練に励み、少年戦車兵としての表情には、皇國必勝の信念に燃える澄しい攻撃精神が溢れてゐる。

☆ 兵隊さんの雑記帳から ☆

詩

トッケーの詩

伊藤軍兵衛

トッケー、トッケー
トッケーは南方の大軍
トッケー、トッケーと鳥の鳴きに
鳴く

自分達がハンコウに上陸した第一
一夜

こいつのけたまゝ、美しい鳴き聲に
かされた

続いて、遠く國境の峻険な山を
越えるとき

深夜のジャンプのこゝかしこ
強行軍に疲れて来た身に、さうい
は

そのかん高い鳴き聲がひびいて止
まなかつたことを思い出す

が、今日ではもうすっかり
染みて

トッケーの鳴き声は兵隊達が
しがる

ク、ク、トッケー、トッケー
「ほら、やり出したぞ」

耳を傾ける兵隊の顔には白く
ひがみ

見たところ、恰好はまことに怪
しかり人には害を及ぼさぬと
この頃では即つて、こいつを
のこさへ思はれる

……遠くビルマへの征伐すてに
一年半

俳句

中支退還 安徳 登

秋草の中に胸あり小休止

秋草の流れる瀧に馬洗ふ

敵を退く木柵の道を急進す

稻穂飛び泥川の陰にキイウク

いなづか一瞬に見ゆ糸畑

初秋の風に逢ひたり討行

日盛りり母の遺愛の守護す

日盛りり展望哨の旗ゆれす

花椰子や門の表札日本文字

雨手深き草を灯せるホテルかな

靴音くさしき子らに合歌散りぬ

椰子の實を浮べて雨手の水返し

拾遺器のめたく釋迦頭影あり

（註）釋迦頭は南方の果實の一種、
タカログ語でアナスといふ

西川比呂志

國建ちてビルマ國原線萌ゆ

國生みの光輝く、バゴダ最

水浴や紅き水浴巾はけり

雨晴ふ虹の聲や合歌の花

（註）合歌は、秋野 崇作

黄砂熱帯帯ちてしやまむ鉄櫛く

紅生若くしも雲の夏開けて

鉄おきて地せんさいをすゝる汗

城壁のこはれし柵や草枯るゝ

娘々廟地獄極楽野は枯るゝ

野火遠き月下の原を動哨す

ドリアンになれて征旅の日詰かく



天竺木鼓

五七

愛馬と共に

挺進だ

十字の火

この夜襲

襲撃が来た

白旗

（五）

嗚れわたり

大城大

高らかに

野間大

（四）

霧き煙めく

岸は近いぞ

青じよきけ

愛馬と共に

（五）

高微色の空

今ぞ軍旗の

路の首も

愛馬と共に

（四）

昨日も今日も

恨んでくれるな

愛馬と共に

（二）

今日の満月

敬の「トンボ」が

愛馬と共に

（三）

雲もない

うるさがる

急進だ

（二）

星城下

泳ぎゆく

名詞子

（一）

橋なき急流

しつかり頼むぞ

（一）

南十字の

三浦 弘

（二）

愛馬と共に

急進だ

（三）

急進だ

（四）

急進だ

（五）

急進だ

（六）

急進だ

（七）

急進だ

（八）

急進だ

（九）

急進だ

（十）

急進だ

（十一）

急進だ

（十二）

急進だ

（十三）

急進だ

（十四）

急進だ

（十五）

急進だ

（十六）

急進だ

（十七）

急進だ

（十八）

急進だ

（十九）

急進だ

（二十）

急進だ

（二十一）

急進だ

（二十二）

急進だ

（二十三）

急進だ

（二十四）

急進だ



陣中がわが待を命筆次に中ルケヤジ

短歌

中支退還 安徳 登

渡河用意就合開きてふと仰ぐ夜空に流るる流星のあり

月細く傾きゆきて我なほも健在なりき突撃を待つ

ふるさとの初夏に逢ひたる友はいま南の島に留きて帰らず

梅雨晴れの池に茂衣を下しきつゝ春門を見れば釣竿の影しき

指揮塔の横にさしたるジャスマミンは芽吹きをまに立枯れぬはや

溪流に海老を刺すてふ苦力のあなとりがたき枝をみたりき

水増して濁流速き淵に立ち今日も糸たれ小まきを釣る

（註）ジャスマミンは芽吹きをまに立枯れぬはや

（註）糸たれ小まきを釣る

（註）糸たれ小まきを釣る

（註）糸たれ小まきを釣る

（註）糸たれ小まきを釣る

（註）糸たれ小まきを釣る

（註）糸たれ小まきを釣る

（註）糸たれ小まきを釣る

上、巡洋艦二隻を近海より撃破、
飛行機十二機（うち不降着八）撃
破、上陸地点を襲撃し五箇所突入
し、其一方の損害、自隊および未
降着機十六機

十月

一 日 ●一、マロモン方面その
後の戦況は依然熾烈にして
（一）コロンバンガラ島の帝國陸海軍
守備隊は連日自機におよぶ敵機空
襲の下に、マロモン島におよぶ
（二）マロモン島に軍用せる有力な
敵軍と交戦中、（三）ペララバ
ラ島の帝國陸海軍守備隊は九月三
日以來、同島北西部において有力
なる敵軍と交戦し、九月十一日ま
での戦況において敵兵七百二十を
捕、多数の戦獲品を得、今なほ激戦
中、

● 所在帝國海軍航空隊および
海上部隊の島嶼と相戦、敵航空兵
力の破損、増援の阻止、増援等に任
じて、

（一）九月中、敵に與へたる損害
飛行機 撃破 四〇機 撃破 一〇機
艦艇 撃破 一〇隻 撃破 一〇隻
（二）九月中、敵に與へたる損害
飛行機 撃破 一〇隻 撃破 一〇隻
艦艇 撃破 一〇隻 撃破 一〇隻
（三）九月中、敵に與へたる損害
飛行機 撃破 一〇隻 撃破 一〇隻
艦艇 撃破 一〇隻 撃破 一〇隻

● 帝國海軍航空隊並びに陸
海軍航空隊は日本近海その他作
戦面において九月中、敵潜水艦大
量を撃破せり

● 十月六、七日有力なる
敵部隊大島島に襲撃し、撃破および
捕虜を行つた、同方面の帝國陸海軍
部隊はこれと交戦の後退せり

● 十月六、七日有力なる
敵部隊大島島に襲撃し、撃破および
捕虜を行つた、同方面の帝國陸海軍
部隊はこれと交戦の後退せり

● 十月六、七日有力なる
敵部隊大島島に襲撃し、撃破および
捕虜を行つた、同方面の帝國陸海軍
部隊はこれと交戦の後退せり

● 十月六、七日有力なる
敵部隊大島島に襲撃し、撃破および
捕虜を行つた、同方面の帝國陸海軍
部隊はこれと交戦の後退せり

● 十月六、七日有力なる
敵部隊大島島に襲撃し、撃破および
捕虜を行つた、同方面の帝國陸海軍
部隊はこれと交戦の後退せり



日毎に鳥海山を仰いで
は増産を誓つてきた時
春の暮りも取入れられ
た。新穀に性され大入
取増産の意。一畝の
刈田のはてに鳥海の山
も今日は日本晴れだ



秋穫のよるとびと感謝を直ちに今
次の食糧戦へ打ちこんで出勤した
勤勞者仕隊は、昨日までの刈田に
今日は早くも家の掃きつけた。寒
地の水田に二毛作を實施するお百
姓さんの決意と自負。これこそ日
本農業技術の勝利でもある



山形縣大宮村

新穀への感謝

新たな増産へ

庄内米の誇りをかけて
どじょうと共立食糧と奮へた戦い
戦ふ日本の戦中、こゝに

大地の恵に感謝する心
戦中、こゝに

十二月の常會

新穀に感謝しませう

「拾りの秋」といへば、何れも、心豊
かな喜びをもつて、われわれに、な
の平和な黄金の波打、田園風景を思
かせてくれます。

悠久の古へ、大田大田が、下米民の
生産資料たるべきもので、一畝一
畝に御津津の穂の光輝を、大田大
長田に御栽培になつてこのかた、えか
に生を受けた農民の日々の食糧と、こ
この賜はつた種子を、四時共に厚い
の御守護と、お百姓さん達の辛苦と汗
の結晶として生育してきたもので、こ
一粒の米にも無限の神恩と尊厳、農家の人
人の辛苦がこめられてることを思ひ、心
からの感謝を捧げたいではありませんか。
ことに、この決戦下の農時では、人、肥
料等の不足の上に、今年はまだ、調子で
なかつた天候に打ち克つて、戦ふ食糧を
確保してくれた努力と、樂觀を感ずるさな

食糧事情を思ひ、大田大田、一畝一
畝に御津津の穂の光輝を、大田大
長田に御栽培になつてこのかた、えか
に生を受けた農民の日々の食糧と、こ
この賜はつた種子を、四時共に厚い
の御守護と、お百姓さん達の辛苦と汗
の結晶として生育してきたもので、こ
一粒の米にも無限の神恩と尊厳、農家の人
人の辛苦がこめられてることを思ひ、心
からの感謝を捧げたいではありませんか。
ことに、この決戦下の農時では、人、肥
料等の不足の上に、今年はまだ、調子で
なかつた天候に打ち克つて、戦ふ食糧を
確保してくれた努力と、樂觀を感ずるさな

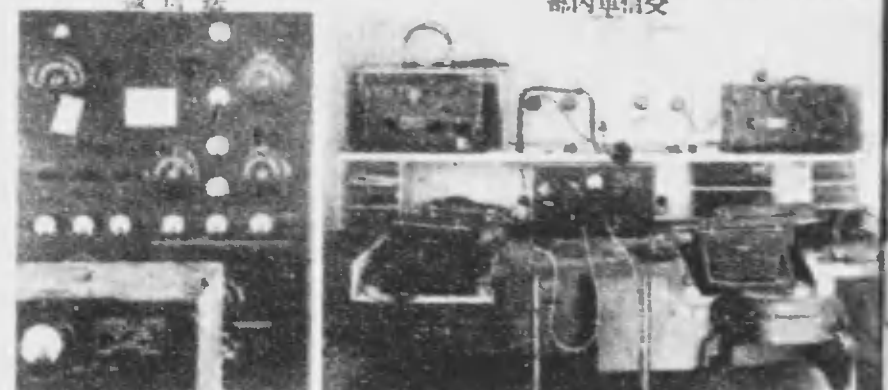
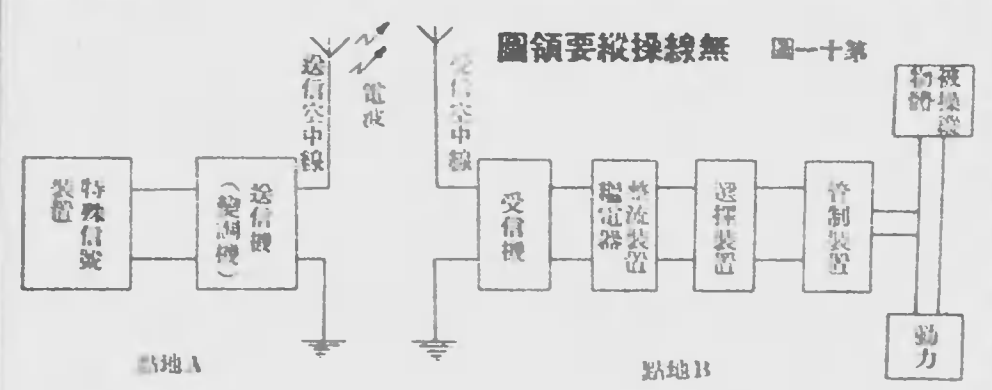
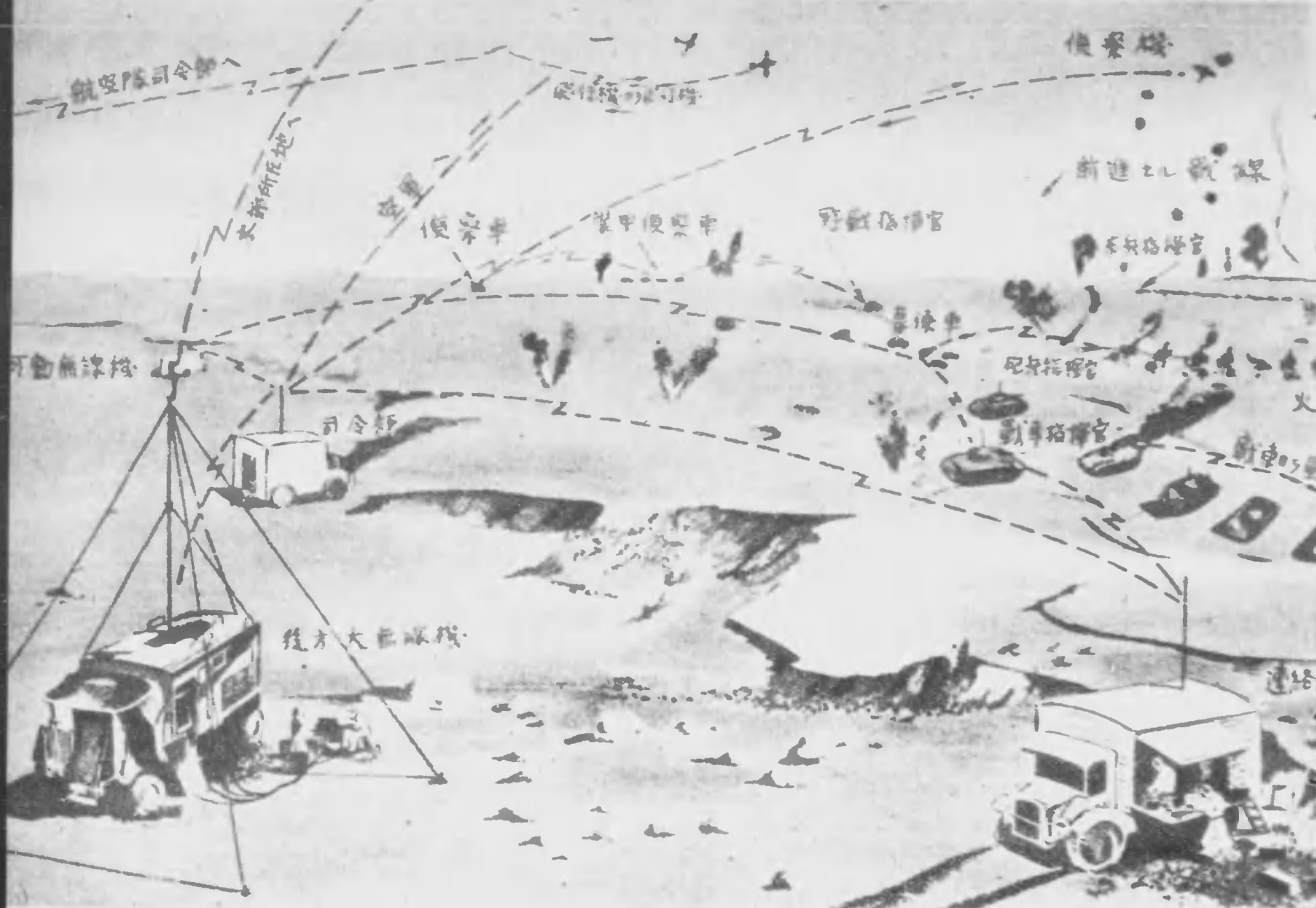
ニッケルや銅等の補助貨
は残らず引換へませう

今日の常會では、この他に白銅貨、銅
貨、ニッケル貨、銀貨等の古い補助貨を
一枚のこゝに決戦の武器にするために、
隣組、部落會、町内會等で取組んで引換
へてことを必ず實行させよう。飛行機に
も、軍艦にも、戦車にも、どうしても必要
なのです。財布の底に一枚でもあつたら
残らず決戦場へ送りませう

4 學科の器兵新

電氣通信兵器

野戰無線通信系



無線通信は現在どの程度に用いられてゐるだらうか。勿論、各國とも秘蔵にされてゐて、その内容を知らねばならないが、無線通信による地盤の探検や船舶の操縦は既に實用化されてゐるやうであり、飛行機に對しても、アメリカでは高射砲の訓練用の標的機として無線操縦式小型飛行機を使用してゐり、將來、無人戦車や無人飛行機の操縦等、如何に發展してゆくかは甚だ興味ある問題であらう。

電 視 (テレビジョン)

電視とは遠方の時々刻々に變化しつゝある光景、或ひは映像を電氣の作用により、時間の遅れなしに再生して観望し得る方法といふので、その原理は第十二圖に示す如きものであるが、要するに、現在ラジオで音聲や音楽等が無線送られてゐるやうに、實際の景色や人物を遠く離れたところに送り、それを活動寫眞のやうに見得る装置であると思へばよい。このやうな装置は、既に大分以前から實驗せられ、軍用にも用ひられようとしてゐるのである。即ち、この装置の送信機を飛行機に乗せて敵艦偵察をやらせ、直ちにその敵艦が後方の司令部に送られて、作戦の指導もできるし、また暗視装置(ナイトビジョン)を用ひれば、夜間や雲の上からでも使用できるわ

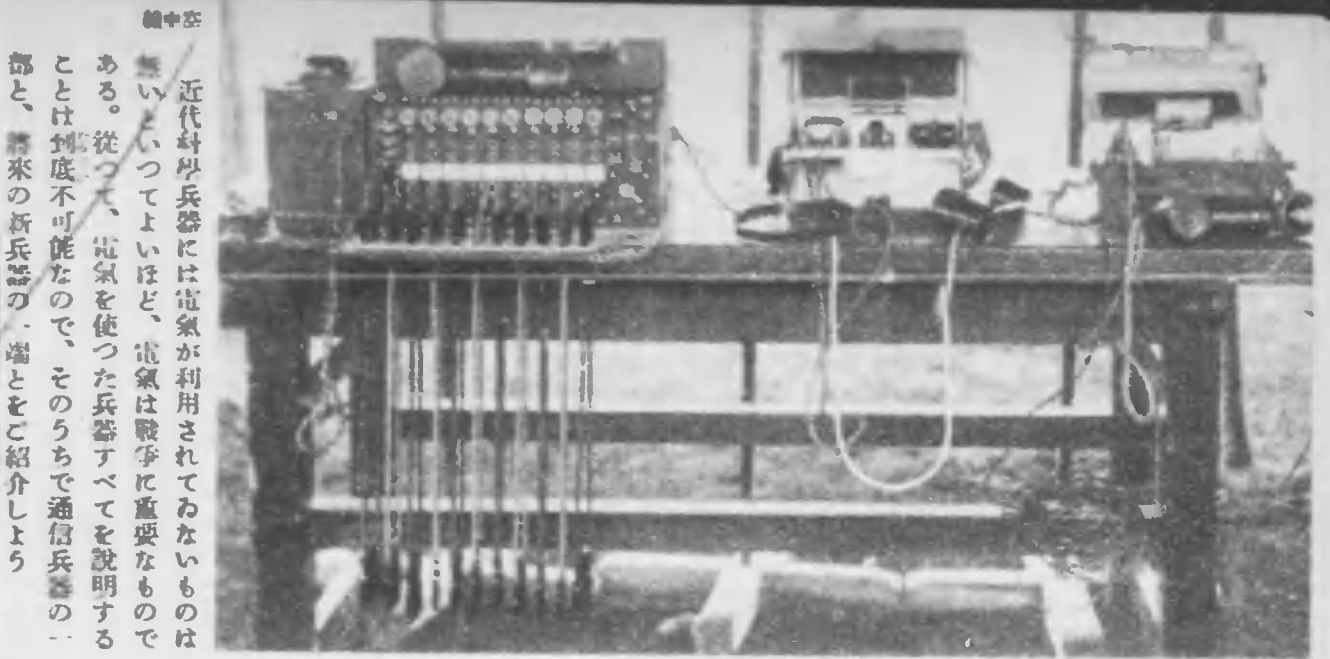
電氣と兵器



近代科學兵器には電氣が利用されてゐないものはないといつてよいほど、電氣は戦争に重要なものである。従つて、電氣を使った兵器すべてを説明することは到底不可能なので、そのうちで通信兵器の一部と、將來の兵器の一部とをこゝで紹介しよう。

その架線法の迅速なことが戦場、重要な要素となつてきたため、自動車を利用したり、また特殊の架線車等を採用してゐるのである。

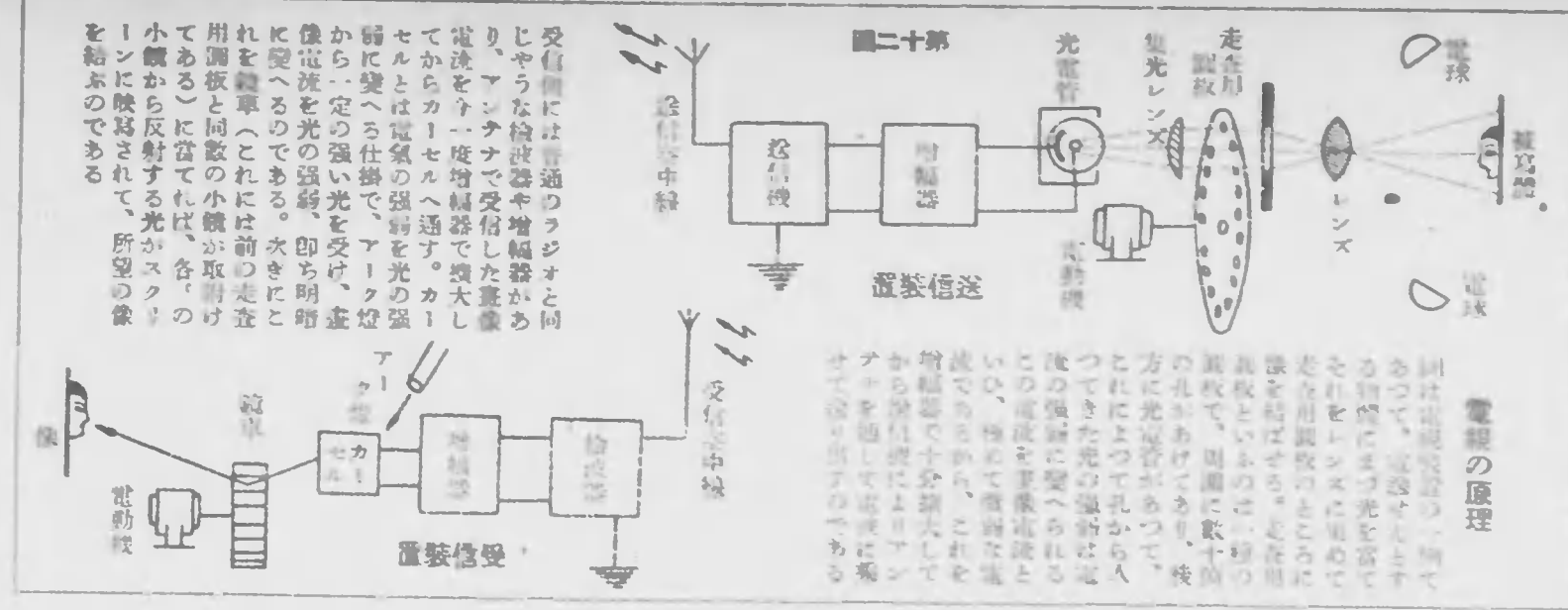
無線通信は架線の必要もなく、便利ではあるが、電波といふものは空間を伝へるから、味方の通信内容を敵に盗聴される危険が多く、秘密保持の點では到底、有線通信には及ばないのである。



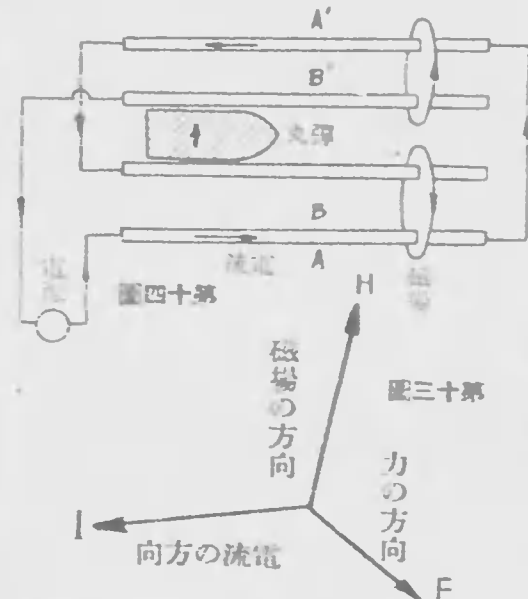
電氣通信兵器は大別して、有線、無線及び特殊通信の三つに分けることができる。これら通信兵器の原理は一般の通信機と變つたところはないが、軍用に用ひるため、その構造や形状をそれ／＼の用途に適當したやうに改良されてゐるのである。第一圖は今大戦において改良された英軍の有線通信器材で、左端は十回線用交換機、右二つは野戦で用ひる電話機のための材料や人馬、車輛等、戦時においては莫大な需要に上るのである。又、近代戦の機械化に伴ひ



けである。或は飛行機の無線機が實験に使はれるやうになれば、これに電報及び暗視装置を搭載して、晝夜の別なく敵陣や敵都市を攻撃して無人飛行機を縦横に活躍せしめることもできるであらう。



電氣砲
電氣砲といふのは、火薬を用ひないで、電氣の力で弾丸を放射せようといふもので、理論的には大威力の無煙無音の砲弾が飛び出すわけであるが、實現はなかなか困難である。一例として、今までに考へられたものを紹介しよう。その原理は、第十三圖の如くフレミングの左手の法則を應用したものである。即ち、電流の流れたる導線を磁場に置くと、



その導線は電流と磁場方向との直角方向に移動するといふ法則を應用したもので、或る方法で目的の如き方向の磁場を作り、その磁場内に導線を置き、これにIの如き方向の電流を流すと、相互作用で弾丸はIの方向の力を受けて、その方向に向つて飛び出すのである。構造は第十四圖の如きもので、矢印の如く電流を通じると、A A'の周囲に矢の如き磁場ができるので、この相互作用によつて弾丸は飛び出すのであるが、弾丸が出てしまふと回路は断たれ、電流が流れば強いほど増加するのは勿論である。電氣砲と稱するものには、この法則に電氣の原理を應用した考へや、電動機の原理を應用した考へ等、種々の方法があるが、いづれにしても、理論的には成り立つが、數百アンペアといふ驚くべき強大な電流を、如何なる方法によつて發生させるか、或は電氣回路の切断方法や火花の始末、電氣的故障の除去等、技術的に解決の問題が多々残されてゐるのである。

陸軍兵隊行政本部 塚原和夫

照準器

増産の秋



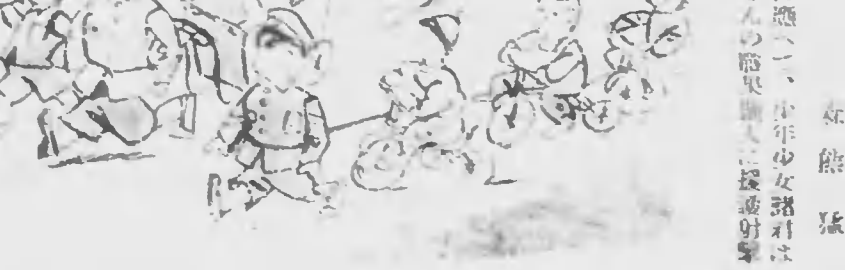
働く忠牛

「家のクローは仕事のないときでもこんな役に立つて働いてくれます。農地のお父さん、安心して下さい。」



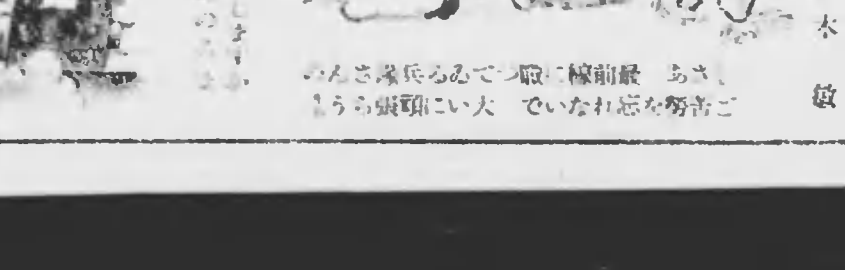
集団お守

お守さん方の集団お守に勝つて、少年少女諸君は電報お守を行つて、お守さんの節果物に探検射撃を楽しませよう。



増産一家

「一枚の紙が積み重なると、どれだけの力になりますか。」

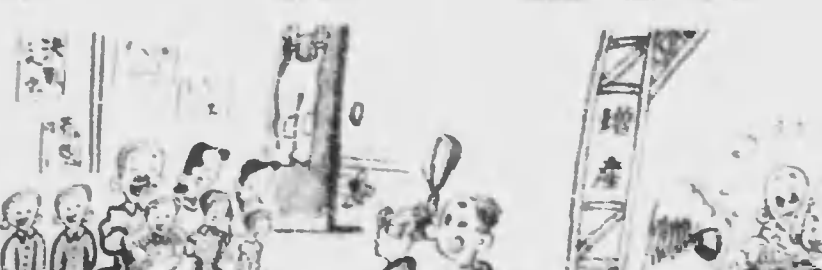


料理人の轉進

「私も昨日から調理師の試験を受けた。この試験は一生懸命にやると、今に限り以上の試験に合格する。」

老人の職場

「私も昨日から調理師の試験を受けた。この試験は一生懸命にやると、今に限り以上の試験に合格する。」



「私も昨日から調理師の試験を受けた。この試験は一生懸命にやると、今に限り以上の試験に合格する。」



★表紙
比島親代大佐の肖像。これは又四百名の従軍の歴史からいふ解放された比島二千名國民の心からの微笑である。比島は昨年一月比島行政府成立以来、司法長官、内務長官を歴任、ついで比島獨立準備委員の初代大統領に就任したものである。氏は徹底した東洋主義者で、はやくから米國の軍政を攻撃してきた。本年五十三歳の働き者である。

熱風 東宮作品
情報局特選日本第十四回
あなたのか 日本映画制作
大東亞戦争完成のために、私は...



寫眞週報 昭和十八年十月廿七日 印刷發行



貯蓄銀行業務御取扱

普通貯金 五十五兆
 据置貯金 十兆

三和銀行

本店 大阪・三橋

寫眞週報

(禁無斷轉載)

昭和十八年十月廿七日 印刷發行

編輯者 三和銀行

印刷局 三和印刷局

發行所 三和印刷局

定 價
 一部十錢
 (送料別)
 外國郵送は別
 外埠は送料別
 其の都度郵代を
 全より差額を申
 受けます

申 送 所
 全國各地官報
 販賣所
 新聞販賣店
 書局
 眞材眞料店

本誌掲載の寫真中、
 影者名或は提供名
 を特記してあるもの
 のは特許法に違反
 の製作によるもの
 又、海軍関係の寫
 製は海軍省承認第
 四〇五號です

本誌を回覧に
 本誌を、読者や感
 謝状など、出
 来るだけ有効に利
 用下さい
 前線慰問にも
 またお読みになつた
 ら本誌を前線慰問に
 送りませう。送料は
 内地と同様で、封紙
 のひは開封にして送
 付と明記すれば、
 郵送です

内閣印刷局印刷發行

（此誌報章）A4の縦横は33x44の各本